

新幹線情報

2009年12月 5日
第5号

JR東海労新幹線地本

東京地区の車両所が三つになったのは 良い車両を提供する為で、なかったの？

車両所・各運輸所・各東京駅の社員の皆さん、東京地区の車両所は今年7月に三車両所
交番検査車両所・修繕車両所・仕業検査車両所に分されました。

当然にも三つの車両所ですから現場長が3人いるのです。組織改正する7月以前は、東
京第一車両所と東京第二車両所の二つの車両所ですから2名の現場長でありました。
科長も総務科長・検修一科長・検修二科長が東京第一車両所3名東京第二車両所3名と計
6名でした。ところが現在はどうでしょうか、交番検査車両所・修繕車両所・仕業検査車
両所と増えた中で各車両所の科長は何人いるのでしょうか？

是非とも知っている方は、新幹線地本まで教えてください。

今、新幹線の乗車率が以前よりも減っていると会社は言っています。そのような中で車
両所の管理者をなぜ増やすような組織改正を実施したのでしょうか。会社は先を見込んで
の経営方針を出しているはずですが、これではその場限りの方針でしか思えません。

新幹線に、お客の乗りが悪いということは会社の数字でも表れていますが、車内清掃し
ている整備会社の社員の人たちが言っています。座席の汚れが以前より減っていると、会
社も分かっているから背もたれのカバーを再利用しているのでしょうか？

三車両所になってよいところなどまったくないのです。総合庁舎のロッカー一室は狭くな
り管理者と一般社員が同じロッカー一室、日勤者だとお尻とお知りがコツツンコというこ
ともある狭い部屋です。庁舎玄関はフラッパーゲートで朝・夕は交検の社員で混雑の混雑、
他の社員は遠慮がちで通るのです。

管理者が増えたのに、社員に連絡が遅いのはなぜ？

仕事はと言うと、管理者の連絡体制が悪く担当管理者しか分かっていない作業指示、別
な助役に聞くと担当でないから分からない！！なに？ あなた管理者でないの？分からな
かったら分かる管理者になぜ聞かないの？ 助役のプライド？ 以前、私たちは検修人の
プライドなど要らない、標準化だけをやっていたらよいのだと言われていました。

当然今は、検修人のプライドや経験などで仕事をしていません。いかに標準化を覚え
たらいのかと仕事をしているのです。それは会社が社員に言ってきたことであり標準化を
覚えてさえいれば仕事は出来るのだと？

しかし、それでいいのでしょうか？この間のZ編成のエアーマレなどは電車の知らない
警備員が発見し報告してくるのです。なぜなのでしょう？ 検査を行う環境が悪いから
検修庫で発見できないのです。会社は分かっていることでしょう。老朽化した検修庫や騒
音の多い検修庫で検査をしている現実がこのような事象を生み出しているのです。

私たちJR東海労新幹線地本は、このような現実を踏まえ管理者の連絡の徹底と検修庫
の改善を会社に申し入れを今までも行ってきていますが、引き続き会社に申し入れを行っ
ていきます。

新幹線情報N04において、中間見出しがフラッパーになっていました。正しくはフラッパーです。